

令和6年度 環境厚生常任委員会行政視察報告書

1 参加委員

(委員長) 花田 慎 (副委員長) 岡崎 進 (委員) 豊嶋 太一 (委員) 清野 匡志
(委員) 今井 理華 (委員) 新倉 真二 (委員) 山崎 広子

2 視察日時

令和6年7月17日(水曜日) 午後1時55分から午後4時00分

3 視察先

福岡県北九州市

4 視察事項

(1) 介護の人材不足を見据えた先進的な取り組み について

5 視察概要

	(担当 新倉真二)
視察先選定理由	<p>介護の人材不足については全国的な問題でありその解消のためにさまざまな取り組みが行われている。北九州市の取り組みは当市が早くから高齢化が進んでいることから介護ロボット等を活用した先進的な取り組みは、多くの行政視察の対象となっていることから、また同地域で複数の市を視察可能であることから候補の一つとなったものである。</p> <p>現在までの介護ロボット等を活用した先進的な取り組みはもとより、今後の取り組み計画とポイントも参考となる点を多く見出せるものと考えられる。</p>
内 容	<p>平成28年に国家戦略特区の指定を受ける。北九州市オリジナルの取り組みとしての先進的介護の実現、さらに地元のロボット産業振興と合わせて、産学官の連携による介護ロボット等を活用した先進的介護の成功モデルを創造・発信していくことを目指す。</p> <p>(1) 対象とする事業者・業務の選定 (2) 業務の見える化 (3) ロボット導入の効果の収集・分析</p> <p>「北九州モデルと言われるテクノロジーを活用した業務改善手法」と資料にもあるが介護ロボットを何のために導入していくのかについて遠回しであるが、ものをつくることもサービスをつくることも一緒であるという前提をお</p>

	<p>き、そこで働く人たちのために行政が何をすることができるのか、という視点で見ることが重要であると感じた。</p> <p>「ロボット特区」を活用して、何をやってきたのか業務の見える化がポイントと考える。</p> <p>機械や技術とはそれだけで役立つものではないというモノづくりのまちを自負する北九州市ならではの話しが基本である。</p> <p>さらにロボット導入の支援拠点も見学させて頂き、導入資機材とその操作も実感した。</p> <p>今後の課題</p> <p>介護分野・事業者によって導入困難であるケースについては地方自治体レベルでの解決は難しいものの、介護の人材不足の解決は豊かな高齢化社会への一番の障害であることから、北九州モデルの介護他分野への応用が望まれる。</p>
<p>考 察</p>	<p>介護ロボット等の導入が即人手不足解消や介護労働環境の改善に結びつくわけではない。分野はまだ限定的であっても北九州オリジナルと誇れる成果を出しているのはその分野を限定してその労働環境を徹底的に調査・分析したことが重要なポイントである。</p> <p>被介護者それぞれ異なる必要とするサービスにどう対応するのか、介護は人であるという当たり前で重要なことをロボット導入の現場で再認識させられた。人手を減らすのではなく、携わる人の負担を減らすということを主眼に据えないとロボットは高価なおモチャになってしまうと感じた。介護の現場で働く人をメインに据えたからこそ現在まで先進的事例とあり続ける事業が可能なのだと考えられる。</p> <p>まず取り組み始めた老健・特養以外への導入の難しさへの課題があることは質疑の中でも明らかになり、支援拠点を視察させていただくなかでも地方自治体レベルでの解決が難しい問題も垣間見ることが出来た。</p> <p>本市においても介護の人材不足については重要な課題であり、まずどこからどう手を付けるのかについて重要な示唆を与えてくれる好事例と考えられる。</p> <p>今回の政策提言との距離は感じるものの、今後介護の人材不足の低減・サービスの向上のために行政がどう取り組むべきか、拠点スタッフとの話しを含め、大変参考になった。</p>
<p>備 考</p>	

